Ⅲ　今後の中信地区特別支援学校のあり方の構築

１　今後の中信地区特別支援学校のあり方を構築するための基本的考え方と対応案

検討項目

１　後期中等教育及び医療的ケアの充実等の観点から中信地区特別支援学校のあり方を検討

（養護学校の過大化等喫緊の課題への対応）

２　中信地区の現状を踏まえて、特別支援学校のセンター的機能の充実と小中学校等における特別支援教育の充実を検討

（課題解決に向けた方策の検討）

課　題

後期中等教育の充実

・盲･ろう学校における知的障がいを併せ有する高等部生が少数であり、作業学習での集団規模の確保、作業学習等に係る専門性向上
・生徒数の少ない学校においては、少人数のためコミュニケーション力や社会性を育成するための集団規模の確保
・養護学校高等部の過大化により、生徒のニーズに応じた作業種の工夫やそのための場の確保
・養護学校高等部の過大化により、現場実習の期間を短縮せざるを得ない状況の改善、及び、卒業後の定着支援の充実
・居住地が学校から遠距離の生徒の多い特別支援学校での進路に係る情報のより効果的な収集、活用

医療的ケアの充実

・医療的ケアの必要な児童生徒数の増加により活動スペースの確保
・遠距離からの長時間の通学による児童生徒や保護者の負担軽減
・緊急時病院への搬送に長時間かかる学校があるため、緊急時の体制整備

その他（教育環境の充実）

・盲学校、ろう学校、寿台養護学校においては、児童生徒数は少ないため、教科指導を行うための教員の確保と専門性の向上
・過大化･過密化している養護学校では教室転用等により対応しているが、今後も児童生徒数の増加が見込まれる松本養護学校では、これ以上の教室転用等が厳しい状況
・児童生徒数が減少している特別支援学校のスペース活用の可能性
・複数障がい種に対応した学校のあり方の検討
・それぞれの学校の専門性向上を図るとともに、学校の枠を越えた課題への対応の必要性

センター的機能の充実と小中高等学校の特別支援教育の充実

・幅広い障がい種の子どもたちに早期から対応できる総合相談支援センター機能の必要性
・ライフステージを見越した関係機関との連携のあり方
・他圏域における実習先、就労先の情報の収集、ネットワークの構築
・サテライト教室など、盲学校･ろう学校のセンター的機能の在り方
・地理的に不利な立場にいる児童生徒への配慮
・市町村教育委員会との連携の可能性
・地域の小中学校の特別支援学級の専門性の向上

課題解決のための基本的考え方

今ある特別支援学校の人的資源・物的資源を有効活用して、児童生徒の教育的ニーズに応じた特別支援学校のあり方を構築する。

各地域における連携体制の充実と小中学校等における特別支援教育の充実を図る

対応案

A　後期中等教育の充実を視点にした教育環境の充実

B　通学利便性を視点にした教育環境の改善

C　医療的ケアの必要な児童生徒の安全・安心な体制整備

D　集団規模の確保による教育の充実、社会性の育成

E　重複化している盲学校、ろう学校と知的障がい特別支援学校との連携

F　準ずる教育のための教員数の確保

G　市町村教育委員会との連携

H　総合的な相談センター機能の検討

I　特別支援学校のセンター的機能の強化